

行ってきました Part 2



みなさん、こんにちは。先月、約束した通り、今月も海外研修について書きます。

前回、アウシュヴィッツで虐殺された人のメガネ、靴、鞆や髪の毛の山を見た時にショックを受けた話をしましたが、みなさん、どんな気持ちになったのでしょうか？私も読み返してみましたが、自分の気持ちの変化に気付いて驚きました。アウシュヴィッツで感じたことがかなり重くて、深く考えれば人を信用することもできず、生活も狂ってしまいそうです。忘れてはいけないことですが、生きていくために自分を守る方法として頭の隅に入れて、今現在を一生懸命生きるべきです。私でさえこうであるのに、ホロコーストを実際に経験した人たちはどうやって乗り越えてきたのかと考えてしまいますね。人間の生命力に感嘆します！

さて、ポーランドからリトアニアへ。

リトアニアへ着いた時もう夜でした。現地のガイドさんに現在のリトアニア共和国のお話をしてもらいながらホテルへ向いました。夜の町は八百津ほどではないけれど、暗くて静まりかえっていました。ソ連時代の共同住宅があちこちに・・・その時は寂しいイメージが湧いてきましたが、朝起きた時にその気持ちは消えました。広い道に古くて立派な建物が並んでいて、メインストリートにはマクドナルドやブランドショップが立ち並んで、決して寂しい雰囲気はありません。

次の日にビリニュスからカウナスへ行って、杉原さんがいた領事館や現在の日本大使館を訪問しました。杉原さんがいた領事館は静かな住宅地に昔のまま建っています。ユダヤ人が杉原さんのことを忘れないように建物を購入して記念館にしました。館長を務める方もユダヤ人です。話を聞くと、よく訪れるのは日本人で最近イスラエル人も増えたそうです。個人運営ですので、なかなか大変みたいです。お客さんがたくさん来てほしいと言っていました。是非みなさん機会があったら訪問してください。(寄付もお願いします)

昔、たくさんのユダヤ人がリトアニアに暮らしていました。ある時期、首都ビリニュスの人口のほとんどがユダヤ人で、ユダヤの文化も盛んでした。町の建物はほとんどユダヤ人の物でしたが、ホロコーストで22万人のユダヤ人のうち94%にあたる20万6千人が殺されました。今では3,600人しか住んでいませんが、その歴史はまだ感じられます。

ビリニュスの最後の夜に起きたことです。旧市街で夕食を食べ終わって、バスへ戻ろうとした時でした。路地から出てきた数人のユダヤ人のグループにばったり会いました。見た目ですぐ分かったので、「シャローム」と声をかけました。話が盛り上がったところへ突然若いリトアニア人に英語で声をかけられました。「すみませんがどうしても言わせてもらいたいことがあります。ビリニュスへ戻ってきてくれて、ありがとう！あなた達の町でもあるので、いつでも帰ってきてください。」と言われて、鳥肌がたち、涙が出ました。この出会いのためだけでも、ここへ来て良かった！一生忘れない思い出です。



ホテルの窓から撮ったビリニュスの町。海外の気分でしょう。



カウナス。ユダヤ人博物館の前に立っている「月光」、杉原さんを讃えるモニュメント。

ハニトさんへの質問は
hanito@town.yaotsu.lg.jp までどうぞ！